

●	関東部会この1年	●
---	----------	---

昭和59年6月、全史料協の地域部会として発足した関東部会は、その設立総会において次のことを決定した。

- ①月例研究会の開催
- ②外国文献講読会の開催
- ③機関誌の発行

以後、全史料協の大会月をのぞいて月例研究会を継続的に開催し、本年8月で通算69回を数えている（最近の1年間の月例研究会については、表を見られたい）。

また、外国文献の講読会（文書館学研究会と称している）では、3冊の本を読了しており、現在次の本を勉強している。

James G. Bradsher, ed., *Managing Archives and Archival Institutions*.

（ジェームズ・ブラッドシャー編、記録史料と文書館の管理のために）

機関紙『アーキビスト』は、最新号で通算20号となっている。

さて、継続した活動を続ける関東部会ではあるが、文書館学周辺の諸学問の幅の広さゆえか、69回を超える月例研究会を続けた現在でも、取り上げきれない分野の多さにいささか驚き入っている。ということは、研究会のテーマは留まることなく続くことになり、主催者側としては嬉しいことではあっても、テーマ内容の学問上の位置付けを行う等、体系的な再整理が必要な時期に来ていると思う。

なお、関東部会の研究会にはどなたでも参加できる。お問い合わせは、〒105 東京都港区海岸1-13-17 東京都公文書館内 全史料協関東部会事務局 (TEL.03-432-8161 水野保または水口政次) まで。

水野 保・東京都公文書館

全日本史料学刊行機構編纂委員会関東部会  
The Japan Society of Archives Institutions, Kanto District Branch Bulletin No.20 April 1999

ISSN 0311-8558

---

1990・4 No.20

アーキビスト  
ARCHIVIST

高島藩門帳の復元について 山田 哲好 1  
 報告目次 アーキビストと編纂者の役割 1  
 八潮市立資料館 1  
 安藤 正人 6  
 小規模自治体における地域文書館の運営 10  
 遠藤 忠久 10  
 藤原 慈千里 14  
 山田 宙子 14  
 松村 光希子 14  
 岡田 昭二 14  
 文書館資料の保存手当 15  
 相沢 秀一 15  
 史料管理への道を歩いた12年間 16  
 安澤 秀一 16

---

第59回月例研究会報告

高島藩宗門帳の復元について

山田 哲好  
(国立史料館)

本報告は当欄で所載している「高島藩宗門帳」(以下、「宗門帳」と略)の復元報告である。(1)宗門帳へ受け入れられるまでの経緯。(2)「宗門帳」の複製。(3)復元方法とその意義。(4)今後の課題について報告するものである。この「宗門帳」は藩政下の行政から藩へ提出された報告書としての、全国的にも同一藩下の宗門帳だけの史料群であることに特長があるばかりでなく、その影響が頗る長く、しかもそれが「一冊」の形で複製されている点でも特異な史料であると考えられる。したがって複製することも兼ねて復元すること、複製されたままの状態では複製に供することもできず、一方では研究者をはじめ地元の方から宗門帳の復元が求められたことあり、これらの問題を併列して複製利用を可能にするのが願であった。今から14年前になるが、私が兼任した中で藩内を案内された、「宗門帳」の複製に際して複製された状態を目の当たりにした際の驚きは、今でも鮮明に記憶している。が、「一冊帳がどうやって復元を」と思ったのは今は定かではな



関東部会月例研究会報告内容

(平成元年7月～平成2年6月)

回数	年月日	報告題名	報告者	所属
57	平成元. 7.31	全史料協会長職の2年間を振り返って 一公文書館法制定を経験して一	須藤 和敬	埼玉県立川越図書館
58	元. 8.24	学習院大学史料館について 一旧華族家史料の所在調査一	長佐古 美奈子	学習院大学史料館
59	元. 9.27	裁断された高島藩宗門帳の復元	山田 哲好	国立史料館
60	元.11.18	アーキビスト養成の新しい波 一ICA国際シンポジウム参加報告一	安藤 正人	国立史料館
61	元.12. 9	小規模自治体における地域文書館の運営一埼玉県八潮市の事例一	遠藤 忠久 藤原 慈千里	八潮市立資料館
62	2. 1.24	外交史料館所蔵史料と閲覧業務	山田 宙子	外交史料館
63	2. 2.24	「史料及び記録の管理：技術と資源」国際研修会参加報告	松村 光希子	国立国会図書館
64	2. 3.24	史料管理学への道を歩いた12年間	安澤 秀一	国立史料館
65	2. 4.25	史料目録の時代変遷	原島 陽一	前国立史料館
66	2. 5.26	文書館資料の保存手当	相沢 元子	
67	2. 6.23	古文書等マイクロ収集の現状と諸問題一群馬県立文書館の事例をとおして一	岡田 昭二	群馬県立文書館